

待ちに待った給食  
ごはん 大根汁  
鶏肉の朝鮮焼き  
ひじき入り野菜ソテー

ほぼ日刊 夢の華  
Cカ a r a ト

第755号

神町中学校 夢色通信社  
令和2年11月11日

# 「学びの月間」スタート

昨日、東根市立神町中学校において、「地区教育研究会社会科部会授業研究会」なるものが行われた。北村山村山地区内の小・中あわせて55名の先生方が集まり、神町中学校2年4組（高橋匠教諭）の社会科（歴史）の授業を見て、研修を深めた。



授業は、江戸末期の開国から明治維新に至るまでの時代を扱い、「開国か鎖国継続か、当時の時代情勢を根拠に自分の考えをまとめる」というものだった。開国をするべきか鎖国を続けるべきか、グループでの話し合いや他の班との意見交流を通して自分の考えをまとめていた。当時の日本経済や世界情勢、国民の生活や朝廷との関係など自分なりに調べてきた資料を基に、活発な話し合いが行われた。

開国派の小野愛実さんは「人がいっぱいいて緊張しましたが、しっかりと話し合うことができた。鎖国派の意見にも納得する部分はあったけど、総合的にみると開国の方がメリットは大きいと思う。」と、鎖国派の菅原悠世くんは「鎖国派は少なかったけど、話し合いができて面白かった。開国した時の良さにも気づけた。でも、外国から輸入品によって大混乱になることを防いだり日本の文化を守るためには鎖国をした方がいいと思う。」と話してくれた。

また、佐藤杏さんは「最初は開国すべきと思っていましたが、他の班が出した鎖国のメリットも見て、開国のデメリットもあることに気づきました。どちらにするか悩んだすえに、開国にしました。」と、下山大輔くんは「僕はもともと鎖国派でした。でも、近代社会に近づくためには改革が必要だし、周りの人の意見を聞いて納得する部分があったので、最終的には開国を支持することにしました。」と話してくれた。授業を見ていた先生方からは、「全員が授業に集中し意見を交換している姿がよかった」「しっかり調べてたくさんの資料を集めていたし、自分の考えだけにとらわれず他の人の意見に耳を傾け、じっくりと聞いている姿が素晴らしかった」などの声があがっていた。



神町中学校では、昨日から「学びの月間」(~11/27)に入った。3年生はもちろん、部活動がないこの期間、1年生も技能教科テスト(11/16)や期末テスト(11/26・27)に向け、じっくりと勉強に打ち込んでみてはどうだろうか。読書など、普段はできないことに取り組んでみるのもおすすめである。